

第4回アジア・太平洋水サミット 第1回合同実行委員会
議事要旨

【委員会開催概要】

日時：令和元（2019）年6月4日（火）16時30分～18時

場所：衆議院第一議員会館 国際会議場

【委員からの主な意見】

- ヤンゴン宣言の前文は、今後の水需給に見通しについてやや危機感が足りない。
- 持続可能な開発目標（SDGs）に取り組む際には、水に限らず、関連する「いろいろなセクターの方々との協働」が重要である。第4回アジア・太平洋水サミット（4th APWS）の成功は市民の皆さんがどれだけ参加するかによって変わる。市民や企業が積極的に水を守っていること、官民連携の実践が見えるようなフェスティバルになると良い。この点は、スポンサーシップの観点からも重要。（沖委員）
- 水問題への取り組みが市民に浸透していくことが、ヤンゴン宣言からのステップアップだと考えている。市民参加の取り組みを企画したい。（大西副委員長）
- SDGs では2030年をゴールにしているが、2050～60年に化石燃料は全く無くなり文明が大きく変わって、今と全く違う水循環になっていく。50年先のエネルギーがない時代に、水文学的な水のサイクルと、人工的な水のサイクルをどう重ねるかをそろそろ議論したい。日本はすでに、将来を見据え、全体を見て水循環について考えていることを示したい。（丹保副委員長）
- 4th APWS は持続可能な発展と次世代への継承をテーマとしている。市民社会の関与について、アジアの水のリーダーとなっていくユースの参画が重要。ユースを巻き込んだセッション等の開催が有益と考える。（パネラ委員）
- 世界中の先進国をはじめとする国々の間では、SDGs に対応した、環境や持続的発展を十分に見据えた企業の先行投資が重要な要素になっている。水問題に対する取り組みは、産業界・企業にとって、負担ではなく今後の発展の好機として位置付けることで、スポンサーシップも含め参加企業の拡大につながる。これから先の社会をどう育てていくか、企業がどうすべきかを、世の中に判断してもらうための指針として水問題を捉える方向性を盛り込むべき。（今井委員）
- 持続可能な発展にフォーカスするのであれば、我々はベストプラクティスをベースに考えるべき。提言の作成に向けて、合同運営委員会やアジア・太平洋水フォーラム（APWF）、国連機関を通じて、解決策を集約していくことが重要。（カーン委員）
- 熊本における市民連携を具体的に見せるのであれば、自治体による特別セッションの開催を検討してはどうか。また、ファイナンスのセッションについて、企業の関心を呼ぶには、解決策を求める相手に参加してもらい、日本の技術を紹介することが考え

られる。その意味で、JICAは災害や持続可能な水管理の分野で重要な役割を果たしている。また、水管理の文化の観点で言えば、日本における生命・生活と水との密接な関係を学ぶことができるという点を強調すると良いと思う。(カーン委員)

- 4th APWSを、ハイレベルが参加し議論するだけで終わらせないことが大事だと考える。そこで、水のためのアジア太平洋閣僚会議を作ることを提案したい。そうすれば、APWSがアジア太平洋地域で政治的な位置づけを得ることになり、サミットの成果を具現化していくために、より持続的な活動を行うことができると思う。(安田委員代理)
- 閣僚会議の創設や、その閣僚会議の前に首脳会議で議論する内容を決めるというやり方については、現在のAPWSの開催趣旨を考えると、屋上屋を重ねるようなことは望ましくないので、よく考えること。(森委員長)
- 4th APWSと他の関連イニシアティブを関連づけていくことが必要である。例えば、4th APWSの後に開催される世界水フォーラムには地域に関するものがある。アジア水会議(AWC)も国際水週間を4th APWSと同じ10月に開催する。(安田委員代理)
- 連携は非常に大事なことである。独断で進むのではなく、水週間等と連携を取っていくことが大切。これだけ多くの会議があるというのは危機感や関心の高さの現れでもある。(森委員長)
- 分科会において、マルチステークホルダーのアプローチについての議論が必要だと考える。水と気候変動、越境水といったテーマの議論も大事である。(安田委員代理)
- 前回2017年を比較すると、国際的に、また、日本国内で、SDGsが地方政府や民間企業へ浸透し、世界の共通言語化したことが進展である。水に関する問題解決に取り組むことがSDGsの達成や達成に近づくカギになると考える。また、ビジネスと関連付けて言うと、ベストプラクティスに加え、イノベーションと解決策をいかに結びつけるかが重要。ICT(情報通信技術)、テクノロジー、法整備等が議論になる。展示まで首脳級が見ることは少ないかもしれないが、展示ブースを見るきっかけを作ったり、昼食会やサイトビジット等、ビジネスと交わる機会を用意するといい。(是澤委員)
- 4th APWSの過程において、いろいろな国際会議でサミットを告知し、気運を盛り上げていくことが重要。ストックホルム世界水週間でのアジアフォーカスセッションは本年8月に予定されている。国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)と国連ハビタットが中心に進めているアジア太平洋都市フォーラムは本年10月にマレーシアのペナンにて予定されている。都市に関する世界最大級の会議・世界都市フォーラムが来年2月にアブダビにて予定されていて、水についても議論されると思われる。9月には、国連気候サミットもある。(是澤委員)
- 水に取り組むことがSDGsの達成に貢献する。水への取り組みがSDGs達成を加速させること、水が持続可能な開発に幅広く関係していることを、成果文書の中核に置くべき。(ザヘディ委員代理)
- アジア太平洋地域は、世界の中で水関連災害に最も脆弱である。貧困な国・住民・コ

コミュニティは、発展の努力をしても、次の災害により、貧困に逆戻りしてしまう。資源の有効利用もテーマの一つになろう。日本はこの分野で非常に先進的であるが、他国はそうではない。工業用水汚染や水利用の非効率性も、重要なテーマである。(ザヘディ委員代理)

- 4th APWS のアウトリーチについて、事前の段階では、我々が有するあらゆるプラットフォームや会合を活用すべきである。事後の段階では、メッセージを行動に転換するため、サミットの成果を、政策や政治的なプロセスに繋げていくため、これらのプラットフォームを活用してもらいたい。(ザヘディ委員代理)
- 水循環は量だけではなく質を考慮した循環を考えることが重要だ。社会の健全性を測る上で、投資の仕方や市民活動のあり方なども含め、水だけではなく水循環の視点から考えると良い。(佐藤委員)
- 熊本の特徴は、地下水の利用と適切な管理にある。これは水循環管理における次のステップを考えるとときに重要。地下水は河川や湖、貯水池よりも広大な貯水領域を持つため、地下水管理については、見える化を図ることが重要。(ナラヤナン委員)
- 3年前、熊本地震で全世帯が断水し、水のありがたさを改めて感じ、頑張っ地下水の管理に取り組んでいこうと気運が高まった。地下水をしっかりと管理するために見える化が大切。今後は、オリンピックとラグビーの大会が開催される予定であり、世界から多くの人々がこれらのイベントに参加されるので、水問題に関する発信をこれらと関連させ、相乗効果が得られるようにしたい。(大西副委員長)

以上